

# WAKU<sup>2</sup> DOKI<sup>2</sup>

この度、未来共創レポートを制作・発行するにあたり、今一度、NKCグループの事業活動の原点を見つめ直すとともに、1924年の創業当初から大切にしている社会との向き合い方について、特に焦点を当てました。社会は常に動いており、地球規模の課題も山積しています。そのような中、NKCグループは、責任ある社会の構成員として、また、社員が社員であることに誇りを持てる企業として、ステークホルダーの皆様と共に、持続可能な社会の創造に貢献してまいります。

——サステナビリティ戦略部 未来共創室



くるみんマーク(一つ星)  
2016年4月に取得しました。



Fun to Share  
環境省が推進する気候変動対策への活動  
に賛同しています。

# 2023 未来共創 WAKU<sup>2</sup> DOKI<sup>2</sup>

# 未来共創 2023

NKCグループが追い求める未来とはワクワクドキドキするものでなければならないと考えます。

同時に、企業市民の自覚のもとに行動し、

豊かで安全安心な地域社会を築かなければならないとも考えます。

その実現に向かった具体的な指針として、事業部ごとのSDGs目標を掲げ、

グループ全体でサステナブルな発展を目指します。

それがNKCグループの未来。

ぜひ、一緒になって創っていききたい、との願いを込めて、ここに未来共創レポートをお届けします。

## CONTENTS

04 / WAKU<sup>2</sup> DOKI<sup>2</sup> 対談  
大阪市北区 **前田昌則** 区長  
×  
中西金属工業株式会社 **中西竜雄** 社長

06 / 未来のカタチ

07 会社方針

08 推進計画・体制

09 推進活動

10 / 昔から未来の開拓社

11 行政との連携・事業を通じた社会課題解決

・大阪府包括連携協定 1 …… 11

・大阪府包括連携協定 2 …… 12

・大阪市北区連携協定 …… 13

14 社会貢献活動

・NKC なかにわ …… 14

・中西奨学会 …… 15

16 働き方改革

17 環境への取組

18 / 事業部TOPが語る未来

19 NKC グループ SDGs 宣言

20 軸受事業部

24 輸送機事業部

28 特機事業部

32 天満製鉄事業部

# 行政×企業×社会、 未来のカタチ

大阪市北区  
**前田昌則** 区長  
(以下区長)

## 行政×企業×過去

【社長】NKCは2024年に創業100年を迎えます。振り返ってみると、創業当初から地域社会への貢献は常に念頭に置いてきました。2代目社長の時に立ち上がった奨学金財団「一般財団法人 中西奨学会」は、これまで50年以上にわたり5,000人を超える学生生徒に約12億円の給付を実施してきました。昨年締結した大阪府そして大阪市北区との連携協定によって、今後は行政と企業が手を取り合って、もっと社会に貢献できる取組ができると期待しています。

【区長】きっかけになったのは2014年に登録いただいた「大阪市北区 防災パートナー」でしょうか。この登録以来、防災・防犯分野において備蓄品や防犯対策グッズなど多数の物品を寄贈いただきました。

【社長】そうでしたね。地域の防災力向上はもちろん、未来ある子どもたちを犯罪から守るために、今後も継続したいと思っています。地域社会の課題を理解し、強い想いを抱かれている行政との連携あってこそ、私たち企業も社会から本当に必要とされる活動が実施できていると感じています。

【区長】私は役所の中からでは企業の想いはわからないと考えていて、行政の想いも正しく企業に伝わらないと思っています。こうして実際に足を運んで、リアルな接点を持つことで、企業と行政の想いが地域社会につながるわけですね。

## 行政×企業×現在

【区長】2022年10月には、日本一長い天神橋筋商店街(大阪市北区)に福祉カフェと子ども食堂を融合した施設「NKCなかにわ」をオープンされましたね。こういう企業が社会に投じてくださった点を更に大きな点へ、そして商店街という線へとつないでいくことが行政の役目だと思っています。

【社長】大阪市北区との連携協定の目玉としてオープニングイベントに参加いただいただけでなく、地域へ向けた情報発信にもご協力いただき本当にありがとうございます。

【区長】実は昨日も「NKCなかにわ」の福祉カフェ(「なかにわカフェ」)でランチを食べたんです。その時に向かいの八百屋さんが野菜を寄付してくれて、そういった形で地域とのつながりを生み出してくれているみたいですね。

【社長】地域の方々の温かさに触れたり、お客様の喜ぶ顔を直接見たりすることができるというのは、主にBtoBビジネスを展開するNKCグループとしても貴重な場なんです。

「NKCなかにわ」を通じて社員が様々な刺激を得ることで、普段の業務や会社の事業にも良い波及効果があると期待しています。

【区長】近年は子どもの貧困や孤食が社会課題となっていますよね。「NKCなかにわ」の子ども食堂(「なかにわ 子ども食堂」)では教師にはできない方法での社会問題へのアプローチに期待していますよ。

NKCグループは、2024年の創業100周年、そして次の100年へ向けて「社会課題に向き合う企業風土の構築」を目標に掲げ、社会と共に持続可能な発展を目指すべく、2022年3月に大阪府と包括連携協定を締結、同年9月には大阪市北区と連携協定を締結しました。

そして今回、大阪市北区の前田区長と中西社長に、行政と企業それぞれの立場から思い描く未来のカタチについて語っていただきました。

中西金属工業株式会社  
**中西竜雄** 社長  
(以下社長)

## 行政×企業×未来

【社長】2025年の大阪・関西万博に向けて、複数の企業が協働で取り組む「コモングラウンド・リビングラボ」の運営委員に参画しました。NKCグループ本社内の一角を提供し、デジタルツインを活用したAR・VRサービスやモビリティ等の開発・試験に役立ててもらっています。

【区長】大阪商工会議所が実験場を探していたところ、快く引き受けられたんですよ。参画企業は本社のカフェテリアを利用することもできて、とても理想的な環境だと思います。

【社長】先進的な技術の進歩は多くの方々に利益をもたらすので、老舗の製造メーカーとして応援していきたいと思う一方、日本を含めた先進国の人口減少が嘆かれ始めました。そんな中だからこそ行政と企業が協力し、将来を担う子どもたちの教育や地域社会の発展に力を入れたいですね。

【区長】人口減少に伴って、急速な経済成長期にあるアジア諸国をはじめとした海外の人材も日本に流れ込み始めています。そのような社会で日本の子どもたちが活躍できるよう、我々の取組にも熱が入ります。

【社長】社員にいつも言っていますが、そうした世界の情勢や社会課題に視野を広げるには、自身の仕事・部署・会社の外にも目を向ける必要があります。ボランティアなどの活動を通じた地域社会とのつながりが不可欠で、このつながりが人生100年時代とうたわれる長い生涯を彩るんですよ。60、70になってやるのがないって考えただけでも……(笑)。

【区長】ゾッとします(笑)。であれば、地域社会とのつながりを創るためにも、行政と企業の垣根をもっと壊していきたいですね。

【社長】おっしゃる通りです。行政と企業が協力してサステナブルな社会を作って、地域社会に還元することこそ、未来の行政と企業のあるべき姿ですね。行政からも地域社会からも「まずは中西金属さんに聞いてみよう!」と思ってもらえるような企業を目指します。

【区長】今後も地域の皆さんがワクワクドキドキする企画をたくさん行っていきましょう。そして未来の成人式で、「子どものときこんな企画に参加したのを覚えています!」と話してくれる人がいれば、私たちの取組は成功だったと言えるんじゃないでしょうか。

Masanori Maeda × Tetsuo Nakanishi  
CROSS TALK

対談の  
全容は  
コチラ  
▽



WAKU<sup>2</sup>DOKI<sup>2</sup>

「未来のカタチ」

次の世代に残したい  
NKCグループの未来像とは、  
どんなものでしょうか。  
2024年の創業100周年、そして次の100年に向け、  
サステナブルな企業であるために、  
未来をどのように設定すべきなのでしょう。

CSR推進のための会社方針

私たちは常に社会とともに発展してきました。  
私たちが大切にしたい想いを明確にするところから未来のカタチが見えてくるはずです。

CSR概念図

【NEXT100に向けて】

社会課題に向き合う企業風土の構築

国連グローバルコンパクトの遵守  
NKCグループビジョン・NKCグループ企業行動憲章・NKCスタンダード

経営基盤の強化

CSR 3Step Project



2030年SDGs達成への貢献



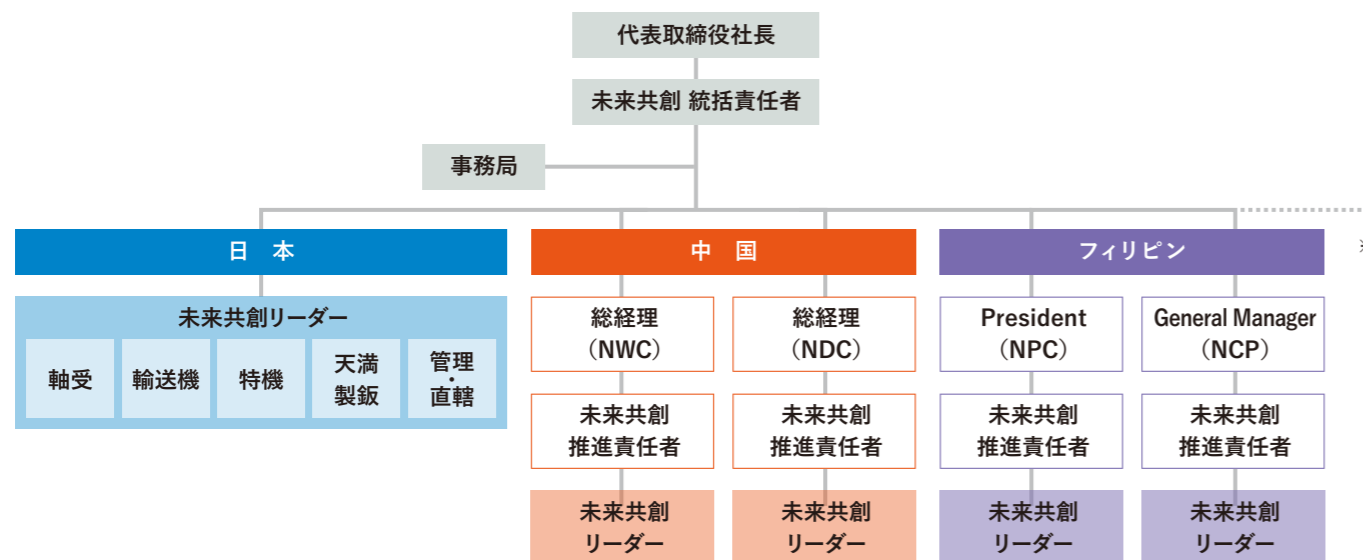
私たちは目指すべき未来に向かって着々と前進をしています。



## ■「CSR 3Step Project」作成



## ■未来共創リーダー任命、社内推進組織整備



※2023年度以降アメリカ・スウェーデンへ展開予定

## ■「SDGs 推進月間(11月)」開催

世界的に取組が進むSDGsについて、会社と社員が足並みを揃えてともに活動を促進することができるよう、2021年度より毎年11月を「SDGs推進月間」に決めました。

記念すべき第1回目となった2021年度は、国内拠点を対象に、SDGsの基本的な意味や会社の方向性について理解を促すコンテンツを発信するとともに「SDGs標語」を募集、続く2022年度は、海外拠点にも拡大し、事業部門別のSDGs宣言を発信したほか、拠点別にオリジナルの活動が展開されました。



海外拠点(中国)の取組



国内拠点の取組



海外拠点(フィリピン)の取組

## ■「未来共創塾2022」開講

### —未来共創リーダー(経営層)の社会課題に対する意識醸成—

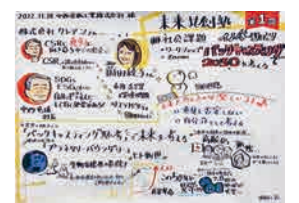
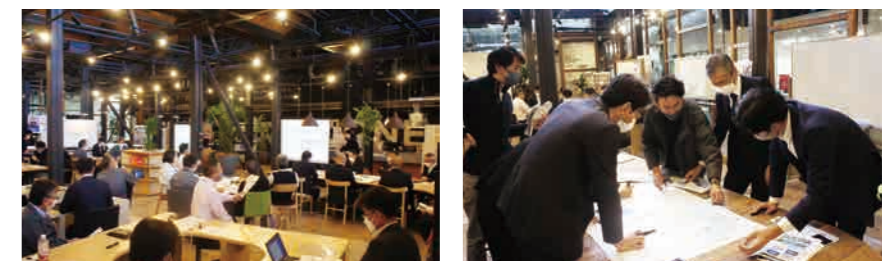
グローバル社会においては2015年に国連でSDGsが採択され、企業も、私たち一人ひとりも、社会課題により一層真摯に向き合わなければならない時代になってきました。NKCグループにおいても、経営的な視点で社会課題を整理し、迅速な判断と実行を通じて企業風土の改革を実現できる体制の構築が急務と考え、『サステナビリティ戦略部未来共創塾』を立ち上げました。

また同時に、経営層を対象に『未来共創リーダー』を任命し、2024年の創業100周年を超えて持続可能な企業となるために取り組むべき社会課題や組織体制について、事業部と協働で検討・取組を開始しています。

この取組の第一弾として、「未来共創リーダー意識調査」を実施し、「事業を通じた社会課題解決」や「サプライチェーンマネジメント」など、様々な社会課題・経営課題について経営層の考えを取りまとめました。

その結果、NKCグループがこれらの課題に取り組むことで未来に向かって持続的な経営を実現するためには、変革が必要であるとの声が多く聞かれました。これを踏まえ、NKCグループの未来に向けた変革の一助とすべく、「未来共創塾」を開講しました。

「未来共創塾」は、社会課題を事業戦略に落とし込むことを最終目的とし、3年をかけて着実に未来共創リーダーの社会課題に対する問題意識を高める計画です。



WAKU<sup>2</sup>DOKI<sup>2</sup>

# 「昔から未来の開拓社」

創業以来、NKCグループには地域社会への貢献活動を実践してきた歴史があります。その活動範囲は多岐にわたり、特に未来を担う子どもたちへの支援には多くの実績を残しています。また、大阪府・市・区などの行政と一体となった活動は、支援をより包括的・効果的に実行し地域社会の未来を豊かなものに創る礎となっています。

## 行政との連携・事業を通じた社会課題解決

私たちは地域行政とのつながりを大切に、常に社会課題に目を向けます。



### ■「大阪府包括連携協定」締結 1

「社会課題に向き合う企業風土の構築」を目指し、これまで長年にわたって取り組んできた活動をベースに、大阪府との連携・協働による新たな社会貢献活動に積極的に取り組みます。



#### 👶 子ども・教育

- ・「NKCなかにわ」での子ども食堂開催
- ・支援学校での作品審査会開催
- ・工科高校でのキャリア教育支援
- ・小中学生への出張SDGs教育



#### 🌿 環境

- ・プラスチックごみ削減活動
- ・エコカーの導入、エコドライブ実践
- ・地域の美化活動



#### 🐾 地域活性化

- ・「animacolle」ブランドを通じた動物愛護啓発
- ・「Catroad+」製品の寄贈(動物愛護センター)
- ・大阪府主催イベントへの参画・協力



NKC×大阪府で取り組む社会課題

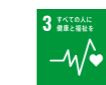
#### ♿ 雇用・産業振興

- ・障がい者福祉施設の製品販売協力
- ・障がい者の雇用促進
- ・起業家の成長支援(ビジネスプランコンテスト)
- ・「男女いきいき・元気宣言」事業者登録
- ・「NKCなかにわ」での福祉カフェ運営・福祉バザー開催



#### 🏥 健康

- ・社員食堂 健康V.O.S. メニュー導入
- ・感染予防対策・啓発
- ・健康経営の取組推進



#### 🏠 安全・安心

- ・旅行者への災害時一時滞在スペース提供(桜ガーデンホテル)
- ・防災活動の周知啓発(大阪府880万人訓練)



#### 📢 府政のPR

- ・本社西棟屋上のLEDサイネージ
- ・JR天満駅構内 自社広告枠



## ■「大阪府包括連携協定」締結 2

NKCグループは、ものづくり企業として長年培ってきたノウハウや知見、そして会社設備などを活かし、事業を通じた社会課題の解決に向けて取り組むことで、大阪府の発展、ひいてはSDGsの達成に貢献します。今後、特に力を入れて取り組む5つの活動をご紹介します。

### 1 府立工科高校×NKC キャリア教育支援

ものづくり企業として、府立工科高校で学ぶ生徒への特別授業や工場見学などを通じて、生徒のキャリア教育支援や就業意欲の向上に協力します。また、次世代を担う生徒たちがSDGsに関心を持ち、SDGs達成に向けた企業の取組について学びきっかけとなるようサポートします。



### 2 府立支援学校×NKC 作品審査会 「ものづくりチャレンジカップ」開催

ものづくり企業としてのノウハウや知見を活用し、府立支援学校の生徒が考案・制作した作品の審査会の開催などを通じて、府立支援学校に通う生徒のものづくりに関する意欲や関心を高め、考える力・表現する力・チャレンジする力の育成を支援します。



### 3 防災×NKC 桜ガーデンホテル「災害時における 旅行者の受入れ等に関する協定」締結

大地震などの自然災害が発生した際、移動が困難となった旅行者(外国人を含む)に対し、桜ガーデンホテルを一時滞在スペースとして提供することで、旅行者が安全・安心に大阪の旅行や観光を楽しめる環境づくりに協力します。



### 4 動物愛護×NKC animacolleを通じた 動物愛護啓発・寄付活動

特機事業部「animacolle」ブランドを通じた動物愛護啓発活動のほか、動物愛護管理センター(アニマルハーモニー大阪)への「Catroad+」製品寄贈、同センターの主催イベントへの協力など、府が推進する動物愛護の取組に協力します。



### 5 府政×NKC 本社西棟LEDサイネージなどを 活用した府政PR

本社西棟屋上のLEDサイネージや、NKCグループが持つJR天満駅構内にある広告枠を活用し、新型コロナウイルス感染症対策や「大阪880万人訓練」などの府政PRに協力することで、幅広い情報を府民に周知する活動に協力します。



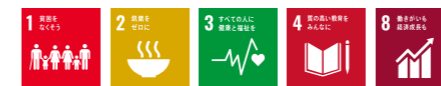
## ■「大阪市北区連携協定」締結

地域社会への貢献は持続可能な発展を指向する企業にとって必須の条件です。実際に社会課題に取り組もうとした時、その効果を最大化し得るのが行政との有機的な連携。NKCグループは、府、市、区などの地域行政のリーダーと志を合わせ、パートナーシップを結ぶことで地域社会の活性化を図り、真の企業市民となることを目指しています。



### 福祉

- ・「NKCなかにわ」での福祉カフェ、子ども食堂運営
- ・障がい者就労支援施設で作られた製品の購入、販売場所の提供
- ・自社内および地域団体との連携によるフードドライブ活動の実施



### こども・教育

- ・中学生の職場体験学習受け入れ
- ・中学校への職業出前授業実施
- ・「NKCなかにわ」での体験会等開催(調理・工作等)



### 安全・安心

- ・防災備蓄品や地域の避難訓練での配布グッズの寄贈
- ・こどもの防犯啓発のための配布グッズの寄贈



### 地域活性化

- ・地域イベント協賛(「天満音楽祭」等)
- ・「NKCなかにわ」施設を北区役所等が主催する福祉活動の場として提供
- ・「NKCなかにわ」でのイベント開催



### 区政のPR

- ・本社西棟屋上のLEDサイネージ
- ・JR天満駅構内 自社広告枠



## 社会貢献活動

未来ある子どもたちを応援したい。  
 私たちが企業としてできることを考え取り組んでいます。

### ■「NKCなかにわ」開所

NKCグループは、1924年の創業以来、環境への取組や防犯・防災活動など長年にわたってさまざまな社会貢献活動に取り組んできました。その中でも特に力を入れてきたのが「子ども・障がい者福祉」への取組です。

### 福祉カフェ×子ども食堂

2018年、未来ある子どもたちのため、大阪府都島区で「なかにわ 子ども食堂」の活動を開始。子どもたちへの食事の無償提供はもちろん、さまざまな文化に触れてもらうためのワークショップや、親子で参加できるプログラムなどを展開してきました。

そして2022年、地域との連携をさらに深め、活動の一層の活性化を図るため、本社所在地である大阪市北区にて、日本一長い天神橋筋商店街内への移転計画がスタート。昭和に建てられた店舗がベースでしたので根本的な大改装工事となりましたが、社内外ネットワークを活用し、さまざまなアドバイスを取り入れることで、明るく洗練された空間が誕生しました。アレルギー対策として天然木をふんだんに使った内装など、子どもたちの健康や安全を第一に考えたこだわりが随所に施されています。

10月に施設完成イベントを開催し、大阪府から公民戦略連携デスク、大阪市北区役所が

ら区長および副区長、大阪市北区社会福祉協議会、地域の小学校、などの関係者が招待され、「一緒に地域を盛り上げたい」「この周りで子ども食堂をやっていた飲食店がコロナで撤退される中、このような素敵な場所ができて嬉しい」とお祝いの声の中での素晴らしい門出となりました。

NKCなかにわは地域のNPO法人との連携をベースとし、「なかにわ 子ども食堂」と「なかにわカフェ（福祉カフェ）」の2つの活動を柱に、地域の課題やニーズに合わせた活動を行います。

子どもたちへの食事の無償提供はもちろん、さまざまな文化に触れてもらうためのワークショップや親子で参加できる楽しいプログラムの実践、さらには障がい福祉サービスの事業所と連携し、障がいのある方々の就労訓練の場として企画・運営を協働で進めるなど、複合的な福祉事業のあり方を探っていきます。

施設完成イベントの様子を放送されました



### 「なかにわカフェ」「なかにわ子ども食堂」のイメージロゴ・イラスト完成!



## なかにわカフェ

1輪のたんぽぽ、実は花びらに見えるひとつひとつが、おしべとめしべを持った小さな花の集まり。

「なかにわカフェ」は子どもから大人まで多様な人が集い、ともに未来をつくる共創の場。小さな花のひとつひとつがやがて綿毛となり、種子を飛ばし、命をつなぐたんぽぽのように、地域で子どもを見守り、子育てに寄り添い、次の世代につなげられる場づくりを目指す。

そんな思いを込めたロゴをつくりました。



待っていている人がいる。また来なくなる。そんな温もりのある居場所づくりを目指し立ち上げた「なかにわ子ども食堂」。

地域の子どもたちが安心して通うことができるように、美味しいごはんたくさんの笑顔を用意して待っている。そんな私たちの気持ちを伝えられるイラストです。

### ■中西奨学会

一般財団法人 中西奨学会は、中西金属工業株式会社の2代目社長である中西義雄氏により、1971年(昭和46年)に設立されました。以来、学業優秀でありながら経済的理由により修学困難な学生への奨学金、および産業科学技術に関する調査・研究に携わる研究機関への助成金の支援を行っています。

これまでに給付人数は約5千人、給付総額は約12億円となりました。こうした育英奨学事業を通して、将来社会に貢献し得る有用な人財の育成を行うことで、日本の産業科学技術水準の向上に貢献します。



「中西奨学会」公式サイトは





## 働き方改革

私たちは、あらゆる社員が生き生きと働き続けることができる、そんな環境づくりを目指しています。

健康づくりの  
取組を  
まとめた  
ムービーはコチラ



## 健康経営

人生100年時代を迎える中で、心身ともに健康で充実した生活を送ることがより一層大切になってきます。NKCグループは、働く人全員が個性と能力を大いに発揮し、やりがいを持って働くことのできる安全・安心で快適な環境づくりに積極的に取り組むことを宣言します。

### 会社の基本姿勢

#### ● 快適で魅力ある環境の提供

働く人にとって安全・安心で働きやすい環境を提供し、あらゆる世代が円滑にコミュニケーションをとれる企業風土の醸成に取り組めます。また、働く人のニーズに合った多様で柔軟な働き方の拡充を推進します。

#### ● 自律的な健康増進活動への支援

健康三大要素(栄養・栄養・運動)がバランスよく保たれるように、ライフワーク・バランスの充実を図ります。



### 働く人の意識行動

#### ● 健康は彩りある人生の土台

健康は個人の財産であると同時に、社会の生産性向上につながるものと認識する必要があります。そのため、計画的な休暇の取得・食生活の改善・会社が企画する健康イベントへの参加を心がけましょう。

#### ● 一生涯健康であるために

一生涯健康であり続けられるよう、一人ひとりがこころと体の健康に対する意識を高め、健康増進活動に取り組みましょう。



## 老舗ものづくり企業が取り組むダイバーシティ

NKCグループは、社員一人ひとりの個性を重視し、性別や年代、役職などに関係なく誰もが自分らしく生き生きと働き続けられる環境づくりに取り組んでいます。

## 部署横断のダイバーシティプロジェクト始動!!

性別や年代、障がいの有無など、あらゆる社員の多様性を認め、受入れ、活かすことを目指し、2022年4月に本社にて立ち上がりました。

参加メンバーは部署の垣根を越えて集まっており、上期は女性メンバー中心の取組となりましたが、ダイバーシティの観点から、下期より男性メンバーも参加し、活動しています。



### 【2022年上期の取組テーマと成果】

#### D&I目線の快適職場

- 男性トイレ(本社)へのサンタリーボックス設置
- 女性トイレ(本社)への緊急用生理ナプキン設置

#### 社内相談コミュニティ形成

- 部署の垣根を越えたOnlineランチ交流会「つながる座談会」の企画・開催

### D&I Lab

#### 5W1H

誰のために、いつ、何をするか。

#### PDCA

改善・発展しながら継続させるにはどうすべきか。

「5W1H」「PDCA」を常に念頭に置き、あらゆる取組を調査・企画・実験する研究所のようなプロジェクトを目指しています。

#### 男性育休取得推進

- 制度利用促進のための障壁調査アンケート展開、(アンケート結果から「1ヶ月以上の男性育休取得」が会社方針として決定)

#### ハラスメントアンケート

- ハラスメントの実態調査アンケート展開(対象682名中469名の回答を回収)

## 工場独自の取組も推進中!

一般的に、製造業における女性比率は他業種に比べて高くはありません。NKCグループは、老舗ものづくり企業として、製造現場においてもダイバーシティを推進することを目指しており、本社に続いて工場独自の検討チームも立ち上がりました!

各工場長が参加する月例の検討会議に加え、各工場内で任命された社員で構成するプロジェクトが同時に進行中です。

あらゆる人が働きやすい職場をつくるため、工場の施設・設備について、改善ポイントを検討し、より良い環境づくりに取り組んでいます。

## 環境への取組

よりよい地球を子ども達に残せるよう、私たちにできることから取り組んでいきます。

## 排出物削減への取組

地球温暖化防止に向けた取組の一つとして、NKCグループは各事業所および生産拠点において、排出物削減のための3R(Reduce, Reuse, Recycle)活動を推進しています。

2022年度には16年連続ゼロ・エミッションを達成し、直接埋め立てに回る排出物はゼロとなっています。

16年連続  
ゼロ・エミッション達成  
(2022年度)



## エコカー導入促進

排出物削減と同様、日々の事業活動において取り組める環境負荷低減活動として、エコカーの導入を進めています。

本社においては社用車の100%が自然環境への負荷が少ないエコカーであり、電気自動車や水素自動車も積極的に導入しています。また生産拠点においても業務用貨物車を除き、乗用車に関しては基本的にエコカーを導入することで方針を統一しています。このような取組が評価され、大阪府の啓発冊子でも事例として紹介されました。



## 木質バイオマス発電事業

NKCグループは、資源循環型社会の実現を目指し、木質バイオマス発電および太陽光発電事業に取り組んでいます。

このうち、木質バイオマス発電事業においては、資源豊富な山形県内で、同県および近隣県から仕入れた100%国内産の間伐材を使用することで、CO<sub>2</sub>の排出を抑制し発電することが可能となりました。このように国内産の間伐材を使用することで、環境への貢献だけでなく、国内の森林整備および災害抑制にも貢献しています。

- CO<sub>2</sub>削減量(年間) : 7,610.39t (2019年実績)
  - 発電量 : 約1,300万kwh(一般家庭約3,400世帯分に相当\*)
- ※一世帯あたり年間約3,800kwhとして算出



WAKU<sup>2</sup>DOKI<sup>2</sup>

# 「事業部TOPが語る未来」

NKCグループは、長年にわたり、独自の技術を活かして社会が求める製品を生み出し、供給することで社会の安全と安心の「保持」に貢献してきました。これまでの歴史を継承しながら、今後さらに社会とのつながりを深めることで、会社が主導するCSR活動はもちろん、事業部が主導するCSV活動をより積極的に進め、全社一体となって持続可能な社会の実現に貢献します。








## NKCグループ SDGs宣言

NKCグループは、グループ全体で社会課題に向き合う企業風土を構築し、事業活動と社会貢献活動の両方を通じて社会の安全と安心の保持に取り組むことで、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します。



### NKCグループ SDGs目標

- 
**9 産業と技術革新の基盤をつくろう**  
 NKCの技術力を活かし、様々な製品を開発することで、最終ユーザーには見えないところで**産業基盤の維持・発展**に貢献している。
- 
**7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**  
 NKCの技術力を搭載した製品は、**世界全体のエネルギー効率の向上**に役立っている。
- 
**8 働きがいも経済成長も**  
 さまざまな製品を開発・製造し、世界中に供給する仕事に、誇りと働きがいを持ち、技術イノベーションを行うことで、さらなる**生産性向上**にも貢献している。
- 
**12 つくる責任つかう責任**  
 技術イノベーションを行いながら、適正に製品ライフサイクルを管理し、**環境に対する悪影響を最小限に抑えること**にも貢献している。
- 
**11 住み続けられるまちづくりを**  
 NKCの部品を使用した様々なモビリティが、**安全かつ簡単に利用できる輸送システムを可能にする**。また、戸車等を使用した窓を通じて**快適な生活**に貢献している。

### NKCグループ 事業部別SDGs目標

- 軸受事業部**  
 金属製・樹脂製保持器、ゴム製品、自動車部品の製造  

- 輸送機事業部**  
 コンベアシステム、物流・マテハン機器、サービスロボット  

- 特機事業部**  
 住宅用パーツ、リフォーム、ライフスタイルデザイン  

- 天満製鉄事業部**  
 鋼材圧延加工  


# 軸受事業部 × SDGs目標

—確かな技術と信頼で社会にいい回転を—

創業当初から屋台骨を支え続け、  
今や「マーケットリーダー」として独自の強みを持つ軸受事業部。  
たゆまぬ研究と歴史が培った生産技術力によって、  
社会のあらゆる「回転」の効率化、  
そして環境負荷削減を目指します。



9

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



## 産業と技術革新の基盤をつくろう

社会の基盤となる環境貢献型部品の研究開発、基盤技術への取組とダントツの生産効率を目指した生産技術力をもってあらゆる産業の発展を支える。

12

12 つくる責任 つかう責任



## つくる責任 つかう責任

ライフサイクル全体を通じて資源の効率的な利用、環境への影響の最小化を目指し、安全安心な市場最高品質の部品を社会に供給し続ける。

13

13 気候変動に具体的な対策を



## 気候変動に具体的な対策を

技術の総合力と効果的な開発システムの実現により、社会のあらゆる「回転」の効率を高め、地球環境負荷の低減に貢献する。

8

8 働きがいも経済成長も



## 働きがいも経済成長も

社員一人ひとりが常に新しい知識の吸収に努め、効果的な教育の仕組みが計画的かつ継続的に実行され、誇りをもって業務に取り組み、成長し続ける企業として社会に貢献する。

軸受事業部  
製品ページ  
はコチラ



軸受事業部  
川上 副事業部長  
(以下敬称略)

「回転」を支える  
そして社会のあらゆる  
NKCグループ、



軸受事業部  
川竹 部長  
(以下敬称略)

軸受事業部とは

川上：軸受事業部では、ベアリングリテーナー(ベアリングの内輪と外輪の間で転動体を保持する役割を持つ部品)をはじめとした、自動車や精密機器、航空機など幅広い分野で使われる部品の開発、製造、販売を行っています。特にベアリングリテーナーは、業界トップシェアの環境貢献部品として広く支持を集めています。

川竹：ベアリングは「産業の米」と言われており、大小さまざまなベアリングがあらゆる機器に使われています。社会で動いている機器を見るたびに社会に貢献していると感じることができる事業部ですね。

軸受事業部とSDGs

川竹：SDGsについて改めて考えることで、社会への貢献について再認識するいい機会になっています。社会が企業にSDGsを求める時代ですので、軸受事業部としても、ベアリングリテーナーという部品の性能を高めることで世の中の回転を効率化し、社会に貢献できるように研究を進めています。

社内での立ち位置

川上：やはり軸受事業部が屋台骨としてNKCグループを支えているという自覚はあります。2024年で100周年を迎えるNKCグループですが、創業当初から製造をお任せいただいているお客様も多く、このお客様とともに歩んできた100年が土台となって、他の事業にも裾野を広げることができています。

部内の雰囲気について

川上：一言で言うなら「農耕民族」ですね。

川竹：「産業の米」と言われるベアリングの機能を内部でひっそりと支えるリテーナーを製造している我々は農家の方々が日夜稲を育てるように、真面目な人が多い事業部です。社員の皆さんのコツコツ積み重ねた努力の結集が、今日のNKCグループを支えているのです。



川上：売上の額だけ見ると大きいですが、ひとつひとつは小さいもの。とはいえ自動車の部品として使われることもありますから、我々のミスが凄惨な事故につながる可能性もあります。何万もある型番を使い、慎重に大きな成果を積み重ねる部署なので、真面目で正直な人が集まるのです。

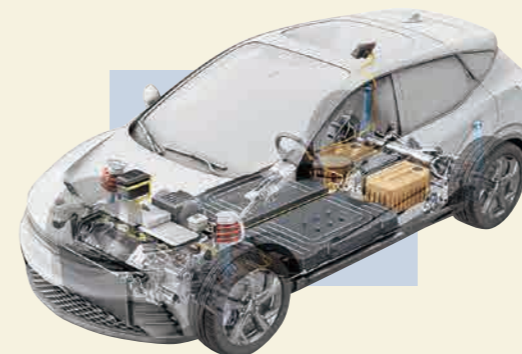
人財育成への取組

川竹：現在特に重視しているのは技術面の継承ですね。やはりものづくりですので、ベテランの技術を後継者へ継承させていく必要があります。そこで新たに「人財育成と技術の伝承プロジェクト」を策定し、継続可能な教育の仕組み

みを構築しました。製造業と聞くと背中を見て学べ、というイメージが強いですが、私たちはこのプロジェクトを通してノウハウを文書として残し、その資料をどの部署の人間でも見ることができるように仕組みを整えています。そして私が皆さんにいつも伝えているのが、「諸先輩の技術を超えていかなければ会社は成長しない」ということ。世代交代による技術向上がなければ、それは単なる人材の新陳代謝にしかありません。若い社員には、若い世代が持つ新しい知見と古くから伝承されてきた技術を掛け合わせたイノベーションを期待しています。

軸受事業部ならではの面白さ、やりがい

川上：お客様の信頼を得られるよう、仕事での管理は徹底しています。一方で、みんなが言いたいことを言えるようなオープンな雰囲気なので、自分の意見をすぐに反映できる柔軟な組織だと思います。NKCグループは大きな会社ですが、仕事の仕方は大企業流になりすぎず担当者ベース。目の前の仕事にのめりこむことも、オーナーシップを持って働くこともできるという点に、面白さややりがいを感じてもらえるのではないのでしょうか。



川竹：自分の意見を付度なく言い合えるという環境ですが、新しいものは生まれません。そして、「こういうことをやってみよう」と提案を受け、「じゃあやってみよう」と私が言った時点で、責任の所在は私になるので、恐れずに提案してほしいですね。ただし、「やってみよう」と言ったことに関しては、できるまで取り組んでもらいます。そういった自由さと厳しさの共存が、100年続くNKCグループの屋台骨を支えてきたのです。

次の100年に向けて

川竹：まず技術面として、100年続いていることからわかるように、NKCグループには圧倒的な生産技術力があります。これは、先人たちが失敗を恐れずにトライを繰り返してきた賜物です。この生産技術力を絶やすことなく、新たな世の中に無くてはならないものを生み出し続けることが、我々の使命です。

川上：世間で嘆かれている通り、これから労働者人口はどんどん減っていきまじ、物価高騰の煽りを受けて生産コストも上がっていくでしょう。100年続いた喜びに慢心することなく、いかにして次の100年を戦っていくか、考え続けねばなりません。しかし、NKCグループはこうした困難に何度も立ち向かい、乗り越えて100年続いてきました。業界トップシェアの商品があり、結束力もあるNKCグループです。これからの時代も勝ち残っていけますし、皆様の期待を超えて伸びていけると確信しています。



# 輸送機事業部 × SDGs目標

—物を運ぶ技術でお客様に安心・快適・高生産性を  
提供し社会に貢献する—

世の中の「運ぶ」を効率化、高生産性化するべく、  
多彩な人材が活躍する輸送機事業部。  
ティール組織の実施やクレドの策定をはじめとした、  
すべての社員が主体性を発揮してチャレンジできる  
環境を構築しています。



9

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



## 産業と技術革新の 基盤をつくらう

産業のプロセスに欠かせない  
「物を運ぶ」に関連した技術能力を向上し、  
新しい技術で自動化や省力化を実現する  
製品とサービスを国内外に広めて  
産業の発展を支える。

12

12 つくる責任  
つかう責任



## つくる責任 つかう責任

安心・快適に物を運ぶ  
製品とサービスを提供するなかで、  
より少ないもので  
より多くより良くを目指し、  
資源の利用を抑えた生産・消費を行う。

13

13 気候変動に  
具体的な対策を



## 気候変動に 具体的な対策を

世の中の「運ぶ」を  
高効率・高生産性化することで、  
環境負荷を減らすとともに、  
環境にやさしい技術や  
生産の方法を取り入れることで、  
温室効果ガスの削減に取り組む。

8

8 働きがいも  
経済成長も



## 働きがいも 経済成長も

社員が個々の能力を發揮し  
誇りをもって働ける風土と環境を  
構築することで、  
働く人の技術力と意欲を向上させ、  
経済成長と持続可能な社会の実現に  
貢献する。

輸送機事業部  
製品ページ  
はコチラ



輸送機事業部  
佐藤 事業部長  
(以下敬称略)



「人」が変われば、  
「組織」が変わり、  
「社会」が変わる



**輸送機事業部とは**

佐藤：輸送機事業部は、1952年からコンベアの生産を開始し、コンベア単体、コンベアシステム、そして、トータルFA化へと事業を拡大してきました。この成長を可能にした一つの要因が働く人の多様性。黙々と作業するのが好きな職人っぽい人もいれば、新しいアイデアをたくさん出してくれる人もいます。女性社員主体のチームや若手主体のチームもありますし、現場のガテン系の人もあります。長年培ってきた技術と誇り、そして多様な社員たちのシナジーが、この輸送機事業部から世界の産業に、多くの利益と付加価値の創造をもたらしてきたのです。

**少しでも長く製品を使ってもらうために**

佐藤：NKCグループは部品を製造している事業部が多いですが、当事業部の特色として、私たちは製品を納入しているという点があります。そして私たちが作る商品は工場設備に関わるものですので、長ければ40年以上使ってもらっているものです。少しでも長く使っていただけるよう、先方の担当者とのコミュニケーションは何十年の付き合いを見越した密接なものになります。



そして求められるものは、時代によって刻々と変化していきます。そうした刻々と変化するニーズにも敏感に反応することで、たくさんのお客様から支持をいただき、今日に至っているのです。

**物流事業という新たな挑戦**

佐藤：最近本格的に参入し始めたのが物流事業。単に「物流」というトラックで運ぶ、というイメージがあるかもしれませんが、商品の仕分けやトラックへの積み込みも「物流」です。フォークリフトをはじめとした、NKCグループが得意とする分野から物流事業に貢献し、コンベア事業と並ぶもう一つの柱とすべく、取組を進めています。製造業というと、男性社員が主体のイメージですが、例えば女性目線での販売戦略や、SNSでの発信を行うことで、新しい切り口での物流へのアプローチを模索するなど、多様な視点で取組を進めています。

**コロナ禍が教えてくれた基本の大切さ**

佐藤：世間がコロナ禍によって行動を抑制された煽りをうけて、各企業が新たな工場展開などを一時停止したことで、我々も影響を受けました。しかしながら、昨年には国内において、コロナ禍前の水準までしっかりと回復することができたのです。この要因となったのが、大変な時期であっても基本を忘れず、保守や改造などの仕事をかき集め、内製化し、コツコツと積み上げていったことでした。このような経験があったからこそ、改めて地盤を固めるいい機会になりましたね。

**ティール組織、クレドの策定**

佐藤：輸送機事業部は現場もあり工場もあり、組織として安全が特に厳しく求められるという特徴があります。この部分に関しては上司が強く発信しないと社員やお客様の安全を守ることができません。しかしながら、上から言われたことだけしかやらないような組織では、もしなにかイレギュラーが生じたとき、迅速な対応をとることができないのです。そこで輸送機事業部では、全員が改めて同じ方向を向いて高みを目指せるようにクレドを策定、そして構造改革としてティール組織<sup>※</sup>を導入しました。

※ティール組織：全メンバーに責任と権限があるフラットな環境下で、全員が主体的に事業に取り組む組織。



**日々、成長痛を感じながら**

佐藤：ティール組織は現在2年目で、鋭意推進中です。ティール組織に正解はなく、社員一人ひとりが自らの意思と判断を下せるようになるにはどうすればいいのか、探しながら進めています。しかし間違ってはならないのが、ティール組織は「社員個人が責任を取らなければいけ

ない」ということではありません。そういった誤解が起きないように注意し、これまでの組織を変えていくのは簡単なことではなく、「人」に合わせた「仕組み」の構築が我々の課題です。

このティール組織が根付いたとき、部署の全員が部署、そして会社の利益を考えて自発的に行動できるようになるはずです。そして、全員が「我々はこうありたい」と語ることができるになれば、輸送機事業部の新たな可能性が見えてくると考えています。

**描く未来を実現するために**

佐藤：NKCグループは働きやすさに貪欲で、社員が友だちに自慢できるような取組を多く持っている魅力的な会社だと思います。こういった取組を入り口にして、社員たちのやりがいやモチベーションを醸成していく会社を目指したいと考えています。そして輸送機事業部として、カーボンニュートラル等の取組により、持続可能な開発という面からご期待に応えられるよう、しっかりと社会貢献性を伸ばしていく必要があります。我々のコンベアは世界から必要とされています。また、物流事業も成長市場であるので、規模を2倍にも3倍にもして、NKCグループの柱にしたいですね。さらに、この事業を育てたノウハウをもって、次の事業を育てる10年、20年にしていきます。これからの輸送機事業部の成長と、社員たちの成長が、今から楽しみでわくわくしています。



# 特機事業部 × SDGs目標

— 世界に誇れるオンリーワンの価値を創造し

誰もが憧れる事業部を目指す —

ベアリングリテーナの「回転」の技術を応用した  
戸車の生産から派生し、  
リフォーム事業、そしてペット事業にも参入した特機事業部。  
「5ゲン主義」と自由闊達な組織風土が、  
地域社会のライフサイクルという「回転」に寄与します。



9



## 産業と技術革新の 基盤をつくろう

自動設備の導入により  
製造工程の合理化を進めるとともに、  
各自が特性を発揮できる  
人材配置・育成に取り組むことで、  
生産性の向上に努める。

12



## つくる責任 つかう責任

お客様目線による  
品質保証体制の強化を図ることで、  
メーカーとして  
果たすべき責任に向き合い、  
安全・安心な製品・サービスを提供する。

8



## 働きがいも 経済成長も

多様な人材配置、全員参画により  
一体感を創出、  
自由闊達な組織風土の中で、  
強くしなやかな事業部を目指す。

11



## 住み続けられる まちづくりを

デザイン性や機能性の強化によって  
長く快適に住み続けられる  
住まいづくりを実現し  
コミュニティを育むことで、  
ハートフルなまちづくりに貢献する。

特機事業部  
製品ページ  
はコチラ



「回転」への貢献  
ライフサイクルという



特機事業部  
西垣 事業部長  
(以下敬称略)

特機事業部とは

西垣：特機事業部は、元々は軸受事業部から派生したということもあり、「回転」に関わる技術の応用として戸車の製造を始めました。今日では戸車をはじめとする窓周りの住宅関連部品に範囲を拡大し、リフォーム事業、ペット事業を展開しています。

村野：ペット事業はもはや「回転」関係ないじゃないか！と言われてしまいましたが、ライフサイクルという面で考えると広義での「回転」なんですよね。



特機事業部  
村野 部長  
(以下敬称略)

村野：戸車はホームセンターなどでも販売されており、各々で取り換えることもできます。しかし、例えばアルミサッシにステンレスの戸車をつけてしまうと、戸車の方が固すぎてサッシをかえて傷めることに。このことは世間に知られていないので、こちらから適切なタイミングで認知いただけるように、分譲マンションの管理組合さまへの訴求を行っています。

新事業「animacolle」

樋浦：住環境へのアクションを取るのが特機事業部のミッションですが、次の事業を考えていく上で、戸車やリフォーム事業を起点としてペット事業に目を付けました。その中でも、近年猫の飼育頭数が犬を超えている点に着目し、猫がいる家庭をターゲットとした事業を展開することにしました。

辻：これまでNKCグループが培ってきた回転を支えるための金具の技術があれば、ペットの安全に貢献できますよね。実際5年前にキャットステップを製品化した際には、15キロを想定して1万回以上の耐久試験を行うことで、その安全性を証明しました。類似品は出てきていますが、技術に裏打ちされた品質がご支持をいただき、リピーターも増えつつあります。



樋浦：大阪府との包括連携協定締結に伴って、動物愛護管理センター(アニマルハーモニー大阪)へキャットステップや



特機事業部  
辻 部長  
(以下敬称略)

キャットハンモック、ペット用サプリメントの寄贈などの活動も行っています。先方が喜んでくださっている姿を見ることができるので、事業を盛り上げていく上でとても励みになりますね。

5ゲン主義の徹底

西垣：NKCグループ内での特機事業部の特徴として、製造・サービス・ECという異なる事業形態が集合しているという点があります。各事業がばらばらにならずにシナジーを生み出せるよう提唱したのが、ものづくりの会社には欠かすことができない「5ゲン主義」\*。全員が現場について、そして製品について詳しいことが当たり前環境を目指しました。「5ゲン主義」が定着した兆しが見えたのが、私たちが「次世代オペレーター」と呼ぶ製品のコンペに勝利し、受注を獲得した時です。事業部内の雰囲気が変わり、部門を超えての盛り上がりがありましたね。



\*5ゲン主義:「現場」「現物」「現実」「原理」「原則」の5つの視点で行動・判断すること。

辻：当時のことはよく覚えています。その受注をきっかけとしてこれまで以上にいいサイクルが始まり、現場とのコミュニケーションも密になったんですね。でもそれだけではなく、西垣さんが毎年の活動方針を事業部全体にしっかりと根下ろしたり、挨拶文化を促進したりといった、日常のひとつひとつにアプローチしたことも大きいです。今となっては当たり前のように浸透・定着しており、本当に西垣さんは特機事業部にとって太陽です(笑)。



特機事業部  
樋浦 氏  
(以下敬称略)

未来を見据えて

村野：昨今のコロナ禍で誰しもが痛感したことです。世の中はめまぐるしく「回転」しています。外部環境が変わっていく中で、それに対応した新しい価値を提供できる事業部になっていかなければなりません。

樋浦：そのためにも、人材育成は長期的な視座を持って計画する必要があります。瞬間的なイノベーションばかりではなく、持久力のある新人を育てるために、ベテランのスキルや行動力を若い世代に伝えていきたいですね。

西垣：若い世代へのアプローチとして、大阪府との包括連携協定をきっかけに、府立工業高校へのキャリア教育支援も行っています。生徒たちへの特別授業や、工場見学などを通して、ものづくりやSDGsに興味を持ってもらえれば、それも我々が社会に提供する新しい価値と言えるかもしれません。

辻：縛られ過ぎず、いろんなことに挑戦できるのが特機事業部の魅力ですね。成長した若手たちがどんなアクションを起こしていくのか、楽しみでなりません。

西垣：世間にはいろんな社会問題がありますが、我々が起こせるアクションも多種多様。これから長く世間の皆様から頼りにされる事業部となるよう、事業部全員一丸となってアクションを起こしていきます。





# 天満製鉄事業部 × SDGs目標

— 素材と向き合い続け、社会と向き合い続ける —

自動車や住宅に使われる鋼材を独自の圧延技術で加工し、  
社会の安全を支える天満製鉄事業部。

日本の新幹線は、彼らの活躍なくして走ることはできません。

この活躍の裏側には、自ら考えて行動することができる人財育成がありました。

9

9 産業と技術革新の  
基盤をつくる



## 産業と技術革新の 基盤をつくらう

圧延、焼鈍を生かした  
強靱な素材を提供することにより、  
しなやかに粘り強く柔軟な  
技術革新を目標とし、  
産業の発展に貢献していく。

12

12 つくる責任  
つかう責任



## つくる責任 つかう責任

研磨を不要とした  
圧延加工による効率的な資源利用、  
生産過程での廃棄物抑制を目指し、  
資源を最大活用しながら  
製品を提供する。

13

13 気候変動に  
具体的な対策を



## 気候変動に 具体的な対策を

効率的な設備運用を  
実現するとともに、  
環境に配慮した設備投資を行うことで、  
地球環境負荷の低減に貢献する。

8

8 働きがいも  
経済成長も



## 働きがいも 経済成長も

自ら考えて行動できる  
人財育成を基に業務の効率化を図り、  
社員のワークライフバランスを向上させ、  
付加価値の向上とともに  
高い成長率を維持する。



「個」の力を向上させ、  
世界に誇れるチームへ



天満製鋳事業部  
萩野 事業部長  
(以下敬称略)

天満製鋳事業部  
製品ページ  
はコチラ



**天満製鋳事業部とは**

萩野：天満製鋳事業部は、自動車や住宅などに使われる金属製品を製造するための鋼材の冷間圧延加工を行っており、独自の圧延技術によって、お客様の要望に応じた板厚への加工が可能です。後ほど紹介しますが、新幹線の安全運行のためになくてはならない仕事をしていますし、また現在は新工場も立ち上がり、メンバー1人ひとりが誇りを持って働ける事業部と言えます。

**NKC内での立ち位置**

萩野：元々は名前の通り大阪天満の本社内であり、軸受事業部の下請けのような立ち位置でした。現在は軸受事業部との連携は保ちつつ、老舗事業部でありながらもベンチャー気質を持った事業部ですね。小さな事業部ですので、守ってばかりでは成長できません。NKCGグループの中、そして社会で広く存在感を示すには、とにかく攻めの姿勢でいることが大切だと考えています。

**天満製鋳事業部が手掛ける製品のセリングポイントとは**

萩野：素材にこだわり、独自の手法で圧延や熱処理、切断などを行っています。手が込んでいるがゆえに、「天満製鋳のものがいい」とご支持をいただくお客様が多いことが誇りです。他企業のものも使ってみて、その上で戻ってきてくださるお客様もいて、信頼と評価をいただいている実感があります。



**一筋縄ではいかなかった移転**

萩野：2021年に、事業部を挙げて現在の神戸工場へと移転しました。一つの事業部が丸ごと動く大掛かりな移転でしたので、NKCGグループの歴史からみても、かなりのビッグイベントだったと思います。旧工場ですべての設備をそのまま神戸工場に持ち込んだのですが、とても驚いたことがありました。それは使っていた年代物の設備が、歴史ある天満の土壌の状態に馴染んでしまっていて、新しく綺麗な神戸工場で作動させると、うまく動作しなかったのです。大慌てで調整を施し、現在は正常に動いていますが、当時は本当に新幹線が止まってしまう!と焦りました(笑)。

**人財育成へのこだわり**

萩野：天満製鋳事業部にはグループ会社のNKCG NASSHも含め約50名のメンバーがいますが、この50名でほぼすべての新幹線に使われるベアリングリテーナー用の材料を製造しています。つまり、我々がいなければ、新幹線は動かないのです。事業部のみんなには、今一度自分たちがすごいことをやっているんだと認識してほしいですね。そうして自信を身に付けてもらえれば、なんでも意見の言い合え、主体的な組織へと成長していくと考えています。



一方で、人生は自分で考えて選択していかなければならないとも考えています。私から言われたからやる、ではなく、やりたいからやる、という意識で業務に取り組んでもらうのが理想です。そのために「個」を重視し、言葉をかける時にも方向性を示す程度に抑えつつ、何かアクションを起こしてくれた際には些細なことでも「褒める」「認める」ことを大切にしています。



**事業部メンバーへの期待**

萩野：事業部長になる前、私は天満製鋳事業部の営業職として勤務していました。その時のエピソードとして、大手自動車会社に2か月間通い続けたことがあります。最初こそなかなか仕事につながるお話はいただけませんでしたが、何度も粘り強く通い続けたおかげで、燃料電池自動車部品のサプライヤー候補となりました。伝えたいのは、とにかく頑張れ、ということではなく、誰にでもチャンスがあるので、臆せずに挑戦してほしいということです。事業部全員が仕事に誇りと自信を持って臨めば、この事業部はどんどん飛躍していけると信じています。

**10年後の天満製鋳事業部の姿**

萩野：当社の製品は新幹線0系から使っていただいています。既存の製品の信頼と期待には応えられるようにしていきたいですね。もちろんそれだけにとどまらず、製品に新たな付加価値をつけるにはどうすればいいか、常に考えています。最近ですと、ある技術がA-STEP(国の研究成果最適展開支援プログラム)に採択され、オーストラリアのウィーン工科大学で行われる国際会議で発表を行うことが決まっています。これをきっかけに世界からも注目されるようになれば、事業部の付加価値が高まると考えています。



**新たな時代を戦い抜くために**

萩野：中西社長は、常に視座を高く持ち、来たる新たな時代へと圧倒的なスピード感を持って進んでいます。我々は、ただそのスピードに追い付こうとするだけでは到底及びません。何か一つでも社長を超えられるものはないか、驚かせるようなアクションを起こせないか、常に機をうかがうことではじめて、同じスピード感をもってNKCGグループを盛り上げていけるのです。まずは地固めとして、工場環境改善と人財育成から。そして近い未来、私たちは社会を驚かせるようなイノベーションを牽引する、唯一無二のチームとなっているはずです。

